

ぎやらりーわ

NO.55

2011年7月号



花の村内散歩 体育館西に咲くアジサイ

編集・発行 NPO法人グループわ(西田圭一) ホームページ http://www.wa-net.jp
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村シルバーカレッジ内 TEL078-743-8101 FAX743-3830



五月晴れ、千人を超える家族連れでにぎわった村の芝生広場(5月5日)

緑風に 歓声はじける ワイワイ広場

「電車ができた」「お皿が回った!回った!」。子供たちの歓声が五月晴れの空に舞い上がります。5月5日、芝生広場で「わいわいストリート」(グループわ、振興協会共催)が開かれ、家族連れら1300人で終日、大賑わいでした。

開店を待ちきれない子供たちが、10時前から長い列を作り、受付を済ますとお目当てのブースへ。輪投げ・サッカーガン・竹馬・折り紙・紙飛行機・コマ回し...20種類もの遊びが待っています。お手

伝いは、昔遊び、一寸奉仕、グリーンプラ、木工のスタッフ100人。

「こうやって乗ってごらん」。初めて挑戦する竹馬に懸命の女の子。サッカーガンで60キロを出して得意そうな男の子。人気の木工工作や動物風船には順番待ちの列が続きます。

担当の岸本理事は「天気よし、客足よし、こどもに喜んでもらえて良かった。80点はつけられるかな」と上機嫌でした。(14面に写真グラフ)



ボランティアの輪をひろげよう

55号の内容

カレッジOB、東北へ駆けつけ震災ボランティア	2~5面
グループわ 第8回総会	6~7面
わ優秀5会員・2団体表彰	8面
ボランティア最前線「木工G」	9面
しあわせの村 野鳥物語	10面
連載「ボランティアの心」	11面
カレッジ便り	12面

[目次の頁へ](#)

1

[次頁へ](#)

グループ わ も支援チーム派遣

カレッジOBら、東北被災地で活躍

東日本大震災から4か月。グループ わ は7月中旬、宮城県下へ支援チームを派遣します。日用品・衣類・農機具などの物資を持参するとともに、現地では田んぼの修復作業や子供たちとの交流を予定しています。サークルなどの協力で進めている物資購入募金は100万円を突破しました。救援物資の提供もお願ひしており、順次、現地へ届ける予定です。一方、K S Cの卒業生・現役の動きも活発になり、現地へ駆けつけボランティア活動をするグループや個人が増えています。（取材 広報・南形徹）

7月中旬、17人で宮城県下へ

東北支援チームは7月18日（火）～22日（金）の5日間、宮城県大崎市にある「NPO法人田んぼ」（岩淵成紀代表）を拠点に、南三陸町・大崎市・登米市周辺で田んぼの修復作業や子供たちとの交歓会をする予定です。メンバーはK S Cの現役・OB17人で、乗用車4台に分乗。募金で購入した日用品・雑貨・農機具などを持参します。

現地の子供たちと息の長い交流をしようと、グループ わ が4月から拠点探しを進め、保田茂講師（生環コース）の紹介で「田んぼ」と連携することになったものです。「田んぼ」は自治体の目が届きにくい農村地域を中心にボランティア活動をしている団体で、3月にはK S Cの卒業生ら5人が手伝いに行っています。

わ では今回の支援活動が成功すれば、秋以降も支援チームを派遣、現地との交流を継続する予定です。

参加メンバーは自由参加8人、昔遊び・一寸奉仕から5人、本部4人の計17人（うち女性は4人）。田んぼグループ（9人）と交流グループに分かれ活動します。支援物資は、「田んぼ」から要望のあった物品を中心に購入。医薬品・日用品・野菜の種子はすでに2回にわたって託送しています。鋤・鎌・スコップなどの農機具類と、カレッジの皆さんからの提供物資ダンボール30箱分は、派遣チームが持参する予定です。

【第1次派遣チーム】 1班＝道満俊徳（団長・生13）内村ナナ子（国18）平林啓子（音18）水島和信（生12）清野清・小澤輝彦（生13）片岡隆夫（国17）海野龍英（食18）芦田義和（会計・生15） 2班＝渡邊佳視（総務・生12）大沢貞男（生13）・内田たみ子（福10）増金スミ子（福11）古後健一（福18）飯川泰郎（国12）黒本茂弘（食13）南形徹（広報・生14）

募金は100万円を突破

わ が3月から始めた救援募金は6月30日で100万円を突破しました。約50万円は振興協会を通じて神戸市へ預託、50万円は要望のあった物資を購入して派遣チームが現地へ届けます。（募金・物資の協力者は5面に）



宮城遠征の5人。左端が鍋島さん。右端はNPO田んぼの岩淵さん

食農塾5人、田んぼを修復

カレッジ卒業生でつくる「ひょうご食農塾」のメンバーら5人は5月6～8日、宮城県大崎市、登米市、気仙沼市を訪れて救援物資を届け、大津波で荒らされた田んぼの修復作業を手伝ってきました。「強行軍だったけど、少しは役にたてたかなあ」。鍋島隆さん（生10）は満足そうな表情で宮城遠征を振り返ってくれました。あとの4人は、高月営子（生7）、嶋谷徹（同）、堅田サチエ（同）、西尾津子（生18）の皆さんです。

一行は自前で購入した日用品・食料・食器・医薬品・文具・玩具・絵本・衣類など1500点近い物資を車3台に満載して6日朝、神戸を出発。片道1000キロの道のりを24時間かけてひた走り（途中で仮眠）、7日朝、大崎市にある「NPO法人田んぼ」（岩淵成紀代表）に到着しました。「田んぼ」は生環コース講師・保田茂氏の紹介で知ったものです。ここは内陸部で津波の被害はないため、物資はもう少し海よりにある登米市の支援物資 配送センターに寄託。

その足で、被害が大きかった気仙沼市に向かい、大谷中学校の学校田で瓦礫の破片を取り除く作業をしました。塩害の除去は終わっているが、瓦礫の破片（特にガラス）が無数にあり、裸足で田植えをする子供たちが危険だからです。その夜は車の中で1泊。8日早朝に現地を発って戻ってきました。「秋にはもう一度現地を訪れ、あの田んぼの収穫ぶりを見たい」といいます。

気仙沼へ 釜石へ石巻へ KSC仲間飛ぶ



(㊤上と下) 気仙沼市大谷地区で田んぼの修復作業 = 鍋島隆氏提供
(㊤上) 園児が奇跡的に助かった釜石市内の保育園 = 東窪紀行氏提供



㊤神戸から毛続々と救援バス。石巻市内で
㊤駅舎を残し線路が流失した常磐線坂元駅
㊤石巻山間の石浜地区の惨状(中林清氏提供)



無残な町「津波ですべて無くなった」

現地へすでに3回 民家のガレキ除去

5月に入って3回も現地へ出かけたのは中林清さん(国15)。1回目は6~9日に石巻市へ。2回目は13

~16日に東松山市と雄勝町へ。3回目は6月3~5日に宮城・山元町へ。いずれも単独で、自治体などが募集した救援バスを利用しました。片道1000キロ以上、15時間ほどの行程です。

現地は地震より大津波による被害がほとんど。家の倒壊は免れても、1階はめちゃめちゃに壊れ、家具や漂着物が堆積してとても住める状態ではありません。10人ほどで民家の家具・ガレキ撤去、床下のヘドロ出し作業をする日々が続きました。

北上川河口の雄勝町では、漁港付近の漂着物を片付け重機を通す進入路を作りました。材木などの漂着物に魚網が絡まって難航。汗と埃でドロドロになりながら手も洗えず、帰路についたことを覚えています。

やむを得ないこととはいえ、被災者が求める作業内容と、私たちがスタッフから聞かされていた内容とがまるっきり違うこともありました。3回目の山元町では、床下の泥出しと聞いていたのに、先方は大工さんを待っていたらしい。大工道具なんて何もなくて、歯がゆい思いをしました。スタッフ間の連絡・連携のまずさ、融通の利かないお役所仕事はボランティア泣かせですね。ただ、スーパー、コンビニは営業しており、食事には困らなかったし、宿泊も主催者がホテルなどを手配してくれて心配なかったそうです。

現役時、建築関係で耐震設計を手がけていた中林さん。3回も現地へ行ったのは「少しでも被災者に役立ちたい」という熱い思いとともに、現地の状況を肌で感じて来て、現在やっている〔人と防災未来センター〕のボランティア活動に生かしたいという理由からです。



勢ぞろいしたボランティア。中央手前が中林さん

「高いお金をかけて、家の耐震補強をしたのに、津波には何の役にも立たなかった...」。がっかりした持ち主の言葉が一番こたえたそうです。

「時間と少し体力のある方なら、60代でもOK。経験・知識があり、若い人をリードできるから」とカレッジ生に東北行きも勧めています。中林さんのブログに震災リポートが載っています。〔うはらのさと から〕で検索してみてください。

単独で駆けつけた山男

「テレビで惨状を見ていて、居ても立ってもいられず」単独で釜石まで駆けつけたのは、東窪紀行さん(生9)。山男で体力に自信があったので、3月27日から4月3日まで6日間にわたって、避難所で活動してきました。

東窪さんは単独行に慣れており、テントや1週間分の食料、水20リットルを車に積んで27日に出発。途中、新潟県下で1泊。28日朝、釜石駅近くの「ボランティ



ア受付所」に顔を出しました。「何でもやります」と言ったところ、釜石市立のぞみ病院の避難所を指定されました。100人ほどの炊き出しを市職員とボランティアら6人で担当するのです。メニューは、おにぎり・みそ汁・パンなど。まだ食材は十分でなく、自衛隊から融通してもらうこともありました。3日目からは、物資集積所でガソリン・灯油の仕分け作業をしました。

避難者とじっくり話す時間はなかったそうですが、「水没した保育園の子供たちが無事、逃げのびたという話を聞きました。前日に避難訓練をしたそうで、園長さんのお陰と噂になっているようです。唯一、明るい話題でしたね」。

「港町・釜石の光景は無残の一語です。地震というより津波で何もかも無くなってしまった。そこが、阪神大震災と一番違うところですね」と印象を話してくれました。(釜石の避難所で炊き出しをする東窪さん=中央)

〔子供たちと共に〕活動を

グループわ 第8回定期総会を開催

グループ わ の第8回定期総会は5月19日、カレッジホールで開かれ、22年度の事業報告、23年度の事業計画を承認。西田圭一理事長ら新役員を選任して23年度の活動がスタートしました。優秀会員の表彰式も行われ、5人と2グループが受賞しました（受賞者氏名と表彰式の模様は8面に）。



シンボル旗の下で行われた総会(左)東日本大震災犠牲者らに黙祷(右)撮影・槌矢勝行

総会は芳賀順子さん(福10)の司会で午前10時開会。西田圭一理事長(生9)が「東日本大震災の募金をありがとうございました。息の長い支援になりそうなので今後ご協力を」と挨拶。来賓の南本伸一・振興協会常務理事も「大震災支援にはグループ わ などの協力で市から3400万円相当の物資と1万人の激励メッセージを贈ることができた」とお礼の言葉を述べ、今井鎮雄学長からは「地域の担い手として期待している」とのメッセージが寄せられました。

今回は理事長が議長を務めることになり、西田氏を選出。「出席者は197人、委任状578人で定足数596を上回っており総会は成立」として議事を開始。22年度の事業報告、決算報告が拍手で承認されました。ここで林哲司会員から質問が出されたが「議案に関係ない」として却下。なおも続いた発言に、議長が「過去にわの名譽を傷つける言動があったので林氏を除名したい」との緊急動議を出し拍手多数で可決されました。

続いて新役員19人(別表)が拍手で承認され、2期目になる西田理事長が「子供たちの知的能力を高める活動を中心にやりたい。大震災の支援は募金活動を継続。現地のNPOとも連携する方向で検討している。未来館の事業も落札できたし、電話相談も順調にきているので、委託事業を柱に据えて活動を進めたい。県から助成を得た里山の整備事業が本格化するので、協力をお願いします」と決意を述べました。

続いて、23年度の事業計画、事業予算を原案通り拍手で承認して11時過ぎ議事を終了。引き続き、部会長・区会長、環境未来館・一ノ谷プラザ責任者、学習支援

【23年度の新役員】

理事長	西田圭一(生9)		
副理事長	藤田忠之(福13)	= 財務担当	
副理事長	鬼村信行(国14)	= 企画担当	
理事	東本孝次(生14)	= 事務局長・総務担当	
理事	岸本 清(生14)	= 事業担当	
理事	一森美代子(福12)	= 事業担当	
理事	南形 徹(生14)	= 広報担当	
理事	大垣廣司(生15)	新 = 事業担当	
理事	堺 汎(園15)	新 = 財務担当	
理事	蘆田義和(生15)	新 = 総務・広報担当	
理事	納村裕子(生15)	新 = 事業担当	
理事	井上千加子(園15)	新 = 総務担当	
理事	渡邊佳視(生12)	非常勤	
理事	林田周治(生14)	非常勤	
理事	菅田忠志(生11)	非常勤	
理事	長谷川博(生9)	非常勤 = 東灘区会長	
理事	小林精一(福9)	非常勤 = 文化部会長	
監事	長谷川洸士(国11)	監事	道満俊徳(生13)
【区会長】		東灘 = 長谷川博(生9)	
灘 = 木下完治(食10)		中央 = 元田弘忠(生9)	
兵庫 = 大掛敏夫(生7)		北 = 笹内孝一(園13)	
長田 = 岸田重徳(国13)		須磨 = 細野恵久(福3)	
垂水 = 元吉治夫(園14)		西 = 水野俊夫(国14)	
【部会長】		福祉 = 加藤勇治(美10)	
国際 = 柳川瀨享一(国13)		環境 = 茅中英一(生11)	
文化 = 小林精一(福9)		いきがい = 岡村健二郎(園7)	
環境未来館責任者 = 三輪匡清(国10)			
須磨一ノ谷プラザ責任者 = 上田市夫(生10)			
学習支援委員会委員長 = 加藤勇治(美10)			

委員長に選出された12人が紹介され、承認されました。

このあと、わ が制作したPR用のビデオ『K I MONO ワンダフル』が披露されました。この作品は昨夏、神戸の国際学会でわ が開いた「日本文化体験教室」の5日間にわたる活動を紹介したものです。

(林会員の除名動議については、6月7日の理事会で本人から弁明を聞いて審議。「動議を覆すだけの理由がなく、定款11条に該当する」として除名処分を正式に決定。8月2日にNPO法14条に基づく臨時総会を開いて承認を求めるとの予定です)。



た社会セクターとしてのNPO法人わの立場で皆様と共に活動し、今までとは違う自分を成長させたいと思っています。ご支援をよろしくお願い致します。

蘆田義和 最近、人の名前や地名が思い出せずに苦労することが多くなった。ボケ防

大震災支援と里山整備

【視点】 「子供たちと共に」をキャッチフレーズに掲げる西田体制が2期目を迎えた。今期は 東日本大震災への支援、カレッジ北側の里山整備 が主要テーマに加わり、例年以上の実行力が要求される。募金や実務作業に、どれだけ賛同者を得られか、会員の協力が得られるか、が成否のカギになる。

わの予算規模は約3900万円。2つの電話相談や未来館などの委託事業収入が8割弱を占め、残る2割強を福祉関係の助成金と180万円の年会費などで補う形になっている。収支構造に変化はないが、学習支援など交通費支給の幅を広げたほか、経費のかかる企画がふえたため、前期は未来館の収支が悪化した。魅力ある入館者対策が急務だ。事業面では、水の科学館・フルーツフラワーパークでのイベントを整理、子供たちと一緒に楽しむ 催しにシフトする方向を明確に打ち出した。

会員は1200人弱だが、高齢化が進み、年々、行動力も落ちてきている。これからは団塊の世代に活動の中心が移っていくので、ボランティア活動に対する意識も変化せざるをえない。15期から理事5人が加わり、執行部も若返った。わの活動も8年目を迎え、一つの節目、変革期に入ったというべきだろう。(M)

ニーズに合った活動を 新理事の抱負

大垣廣司 グループわ は、社会に幸せを還元するために設立した団体です。皆で力を出しあい、無理せず、楽しく、仲良く、元気よく活動していきたいと思っています。社会のニーズにあった活動をしていきましょう。「わ」で活動する人は全員「わ」の会員になってください。これが活動の基本だと思いますよ。

堺 汎 新理事として活動を始めさせて頂くことになりました。東日本大震災のニュースが連日のように大きく報じられています。在校時、あまり気にしなかつ

止に役に立つものと信じこみ、軽い気持ちでわ本部に入ったが、予想より業務が多く戸惑っている。また、たくさんの会員の方が、各部会や区会で多岐にわたるボランティア活動に参画され活躍されているのを知り、敬意を表すると共に少しでもお役に立てば、と思っている。

井上千加子 卒業してどうしようかな?とっていた時、グループわへの誘いがあり、何も分からなままに入ってしまった。総務担当で、さまざまな活動のお手伝いをするようになりました。この1年は、与えられた仕事を教えて頂きながら覚えていこうと決意している次第です。

納村裕子 しあわせの村の景色に魅せられて3年、もうお終いと思った時、わにお世話になることが決まりました。もうしばらく、今まで通りの生活が続きます。卒業したら、海外旅行に行く約束をしていましたが、しばらくお預けです。わで仕事を覚え、新しいことに挑戦し、心身共に老後を全うできるように頑張りたいと思っています。

感動呼んだ難病体験トーク

総会第2部のアトラクションとして、午後1時20分から「エスペランサ」のトークコンサートがあり、約200人が奥田良子さんの闘病体験と優しいフルートの音色に耳を傾けました。

奥田さんは神戸市在住。クローン病という消化器管の難病と闘いながら、夫の勝彦さんと一緒にフルート、オカリナの演奏活動を続け全国を回っています。入退院を繰り返した20年の体験を軽妙な語り口で披露しながら、「イエスタディ」や「上を向いて歩こう」「千の風になって」など10曲を演奏。「病があっても夢を追いかけることはできる、という私の体験をぜひ、皆さんに伝えたい」とトークを締めくくり、客席からは激励と感動の大きな拍手が贈られました。(12面に感想文)

優秀5会員・2団体を総会で表彰



喜びの受賞者

敬称略・左から

横井幸雄
元田弘忠
豊田 實
入江敏行
川島精一
白岩信義
宮城智子
亀田俊彦

【22年度の受賞者】

亀田俊彦（音1）＝民謡・三味線の指導
川島精一（園4）＝神戸港ガイドで活躍
白岩信義（国7）＝区会活動に新境地
豊田 實（生4）＝神戸情報館での活躍
宮城智子（音2）＝福祉施設の友愛訪問
むかしあそび研究会＝伝統玩具の伝承
中央区会と真愛ホーム介助（連名表彰）
＝真愛ホームなどの支援

22年度のグループ わ 優秀会員の表彰式が5月19日、総会後に行われ、5人と2グループ（別表）に西田圭一理事長から表彰状と記念品が贈られました。会場では、受賞者の多彩な活動ぶりがプロジェクターを使って詳細に紹介され、盛大な拍手を浴びました。

グループ わ の表彰制度は、個人で7年、団体では5年以上のボランティア活動歴があり、個人やグループから推薦のあった候補者を対象に、運営委員会投票により選考し理事会で決定されます。（受賞者の活動内容は、54号に掲載しています）

感激です.....受賞者の声

亀田俊彦 カレッジに入学し、阪神大震災に遭遇した時、ボランティア活動を知りました。「三味線と一緒に」のグループを立ち上げ、仮設住宅などへ慰問に出かけて皆さんと喜びを共にしたことがきっかけです。好きなことでの社会奉仕の活動をお認め頂き感謝感激です。

川島清一 ボランティア活動は一つの楽しみでもあり、生活の中における励みにもなっております。かつては、淡路花博の剪定ボランティアなどに従事することができましたが、近年は、体力が衰え、歴史の勉強、地域の方々との交流に楽しみを見出しております。

白岩信義 この度のプルトップ収集などでの受賞は、日頃の東灘区会を始め皆様方のご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。ASAの車椅子贈呈運動も、ここしば

らくは東日本大震災支援にあたるとのこと。頂いた副賞も義援金とさせていただきます。今後とも「プル」収集に更なるご支援を強くお願いします。

豊田 實 平成12年3月、4期生（生環）としてカレッジを卒業しました。在学中は建学精神の「再び学んで社会に還元する」をモットーに学んできました。そのお陰でこの度 わ の優秀会員に選ばれ幸せに思っています。今、その喜びの中で思うことは、人生とは、生き甲斐とは、誠心誠意打ち込める仕事を頂き、働ける時こそ、しあわせであるということです。

宮城智子 ボランティアは、震災以来自分が元気を取り戻したい気持ちから始めた。其のお陰で病気は持っけていても病人にならず今日まで元気に来られたことが、何よりの証し。ボランティアも仲間が居てこそ出来ると、確信します。多くの友が出来たのも、ボランティアのお蔭です。仲間感謝の一言です。

入江敏行（むかしあそび研究会） 発足10周年の記念すべき年に、私たちの長年の地道な活動に対し、優秀グループ表彰をしていただき有難うございます。会員全員の喜びです。これから会員の絆を大切に、昔遊びを通して子どもたちに愛と夢を育み、学校・地域等に貢献したいとの思いを新たにしています。

元田弘忠（中央区会） 優秀団体表彰の荣誉に浴し、中央区会として感謝いたしております。これも先輩会員を始め現会員の長年の活動が認められたもので、特に真愛ホーム介助については延日数、延人員とも群を抜いており、賀川記念賞の受賞もこうした活動の賜物と思っております。グループ活動は協調性が肝要であることを述べて受賞の想いとさせていただきます。

横井幸雄（真愛ホーム介助） 2007年K S C卒業と同時に福祉部会長を引き受けて、親愛ホーム介助の活動に参加した。 わ 設立10周年の年で、記念の行事の中、活動の歴史の重みを知った。コーラスの「なでしこ」から始まり、歌唱指導、マジック、介助と多彩な活動の歴史がある。中央区会とともに歴史を積み重ねて行きたい。

子供も大好き 木のおもちゃ作り

ボランティア最前線

ボラセン大会の出品準備に忙しい工作室（6月14日）



優れた技術...木工グループ

木片で電車や動物を作る工作は子供たちに大人気。グループわのイベントでは、いつも順番待ちの列ができるほどです。木工の魅力とはなんだろう？ 6月10日、ボランティア報告会を控えて忙しい木工グループの工作室を訪ねてみました。80平方メートルほどのスペースに、各種機械やのこぎり、かな、板材、作りかけの作品が所狭しと並び、現役とOB10人ほどが、出品するプランターや額・本立て作りに大忙しです。ここは、カレッジの東側、園芸コースの農園の横にあり、少々機械音も迷惑になりません。



木工グループのボランティア活動は、年間を通して多岐にわたっています。大西勲（園10）さんによると、環境未来館や振興協会などと協力して実施する「夏休み宿題お助け隊」「わいわいストリート」「夏休み工作塾、工作教室」が大きな柱です。数百点から2000点の部品を用意し、子供たちと一緒に、巣箱・船・遊具などを作りますが、怪我をさせないよう細心の注意をはらって作業するため、昼食をとる間もないくらいです。にこにこ顔の子どもたち、親子の楽しそうな触れ合いの姿を見ると、疲れも忘れるそうです。

他団体からの要望も多く、網戸の補修を頼まれたり、バリアフリーグッズを製作したり、小物から家具までなんでもこなす技術集団です。環境に優しい木工品の人気は高く、幼児にも安全で、ぬくもりのある木馬・積み木・はめ絵などのおもちゃは技術的にも優れ、目玉作品となっています。

木工グループのスタートは、阪神淡路大震災があった95年7月。KSCで被災者支援の動きがあった頃です。仮設住宅などの改善を目的に、玄関、風呂、階段などに手摺り、踏み台などを設置することから始めました。以後も木工好きが集まって活動を続け、OBたちもわの傘下で、最古参のクラブとして31人が活躍しています。

もくもくと、楽しげに...木工に取り憑かれたグループの作業場。「ぬくもりのある木材は、香りもすばらしいし、色々な形に変えて様々な物を作り出せる。自分の考案した作品が高い評価を得た時の感動もすばらしいですよ」。大西さんの語る、こんな魅力が、皆さんのやる気の原動力のようです。



（写真と文 広報・徳原尚世）

しあわせの村 野鳥物語



さあ、観察を始めよう

バードウォッチングは、自宅の庭や近くの公園で簡単にできます。若葉が茂る前の春先と落葉した秋から冬にかけてが観察によい時期です。春は野鳥のオスが子育て相手のメスを見つけ、縄張りを主張するために大きな声でさえずり、よく動くので見つけやすい。秋は木の葉がないので野鳥を見つけ易く、冬の使者のカモ類も北の国から渡って来ます。

しあわせの村は、年間約80種類の野鳥と出合える身近で恵まれたバードウォッチングの場所です。野鳥の視力は人間の7 - 8倍といわれ、私達が近づくと目敏く見つけ、注視しています。野鳥を驚かせないように、余り動き回らず、静かにウォッチすることが大切です。私達がしばらくじっとしている(10分位)と、野鳥は警戒心を解きますので、それからが観察のチャンスです。

野鳥観察は、探鳥会に参加したり、野鳥観察に慣れた方に同行したりして、まず肉眼で野鳥のい

る場所、姿、大きさなどに慣れること。鳴き声を聞いて、簡単な野鳥図鑑を参考に、双眼鏡やスコープを覗かせてもらうことから始めるのが良いでしょう。次に、手ごろで扱い易い双眼鏡を購入します。電器店やホームセンターで、初級機種なら5千



イラストは野鳥観察会提供

1万円くらい。ニコンやキャノンなどの上級機種は2 - 3万円くらいで入手できます。(略図参照)。将来的にはスコープ(望遠鏡型)があれば、観察の楽しみもふえます。ニコン製の普及機種(20~40倍)ならアイピース、3脚共で7 - 10万円くらいです。(野鳥と自然観察会・茅中英一)

特別支援へのアドバイス

講師招いて学習支援の集い

今年度初めての「学習支援の集い」が4月20日、シルバーカレッジ学習室で開かれ、登録者60人が参加しました。今回は、養護教育の専門家・小部小学校の薬師寺勤校長(写真)を招いて「ボランティアの皆さんに期待すること」をテーマに話し合いをしました。

支援者の悩みや、戸惑いが多い特別支援(なかよし学級)について、「子供たちにとって学校は唯一の憩いの場なのです。できるだけ声をかけ、顔を見つめ、話しかけてやってほしい」「教科書(模範解答)はありません。どんな事態にも対応できる心構えが大切。子供たちがリラックスできる雰囲気づくりをしてほしい」とアドバイスがありました。

参加者からは「なかよし学級での接し方がわかり、理解が深まった」「支援者の悩みや疑問に答えてもらってよかった」との感想が聞かれました。

今年度は、支援校を50校・実働支援者を70人にふやす。在校生にも支援仲間に加わるよう積極的に呼びかける 教材や情報の提供など内容面の



充実 講習や体験交流を活発に行い支援者のスキルアップを図る を重点目標に活動することを確認。市内を5ブロックに分けて、支援委員が登録者のサポートをする体制をスタートさせることになりました。

愛称は「花実の森」

愛称は「しあわせの村 花実(はなみ)の森」にグループ わ が、この春から整備を進めているカレッジ北側の里山のネーミングが決まりました。ここは、ハギ・ツツジ・ササユリ・キンランなどの花、クヌギ・コナラ・ヤマモモ・シバグリなど実をつける木々が多く、子供たちの環境学習にはもってこいの場所です。県の助成を受け、5年がかりで憩いの森として整備を進めるものです。愛称と同時にポスター、パンフ類を制作。里山整備の活動を手伝ってくれるカレッジ生・OBを募っています。申し込みは わ 本部(743-8101)へ。

里山整備ボランティア募集

ボランティアの心

よろこびも・苦しみも人形劇と共に

今年は何人の入部があるかしら？ドキドキしながら人形劇クラブ「ゆめ」のパネルの前に立つ。毎年、入学式には、大きな声をあげて勧誘するもの、多くの新入生は素通りし、他のパネルの前へと……。私たちのクラブは、過去2～3年にわたり部員がなかなか集まらず、廃部寸前までいっていたが、この春は4名もの入部があった。久々の明るいニュースに心ときめかせている。



1年に新作1本という目標で作品を選び、人形作り、舞台装置製作にとりかかる。夏休みは暑さも忘れて、てんてこまいである。人形はどんな表情？衣装はどんなのがよいか、バックの背景は？それにおしゃべりも加わり、限られた容量の頭をフル稼働させながら、現役とOBとのチームワークで作品はなんとかでき上がる。さて ボランティア公演当日。 会場で舞台を組んでいると、子供達は何が始まるのだろうかと思

味深そうに、ちらちらと覗きにくる。落ち着きなく動きまわったり、友達と大きな声でおしゃべりしたりしていた子供達も、公演が始まると、ぴたっと静かになり、キラキラと目を輝かせながら人形の動きに見入っている。

演目によっては舞台を飛び出し子供達のいる会場の中へと入っていく。お団子を追っかけるシーンでは、子供たちの頭の上にお団子をぴょんぴょん

と飛ばしていく。捕まえようと立ち上がる子、頭をそらす子...会場と人形が一体になる瞬間は、なんともいえない醍醐味を感じる。

終了後、子供達との触れ合いも楽しい。鬼の丸いおヘソをつかんで放そうとしない子、鬼の顔が怖いと泣き

出す子、エピソードを数えあげれば切りがない。よろこびも・楽しみも・苦しみも幾歳月...。部員は黒の衣装で身を包んで黒子に徹し、触れ合いを通して、多くの子供たちから毎回エネルギーをもらっている。さらに人形劇は、創造性豊かで達成感もあり、ぼけ防止？にもうってつけである、と考える今日この頃である。=写真は「鬼の忘れ物」の一場面
白井八枝子（生環14）

車いすテニス 50人がお手伝い

2011・車いすテニス大会（神戸オープン）が4月21～24日、しあわせの村と三木総合公園で選手約100人が参加して開かれ、グループわの有志50人もボランティアとして活躍しました。

この大会は、国際公認ツアーとして人気があり、しあわせの村で開催され18回の歴史を誇っています。毎年、国際部会と北区会が、会場設営・駐車場の整理・食事の世話・プレーヤーの介助をして感謝されています。柳

川瀬部会長は「毎年、選手の皆さんには喜んでもらっており、部会の中心行事としてやっています」と話しています。



花山小の梅林「梅の実とれたよ」

北区・花山小学校裏の梅林の梅がたわわに実り、6月27日、3年生の手で梅の実採りが行われました。子供たちの笑顔・はしゃぎ声が梅雨の晴れ間に響き、管理している花山梅林会にとっても、一番報われるときです（写真）。この日採った梅は、ジュースやジャムにして子供たちが試食します。私たちスタッフも取り残しの実を採取。「ブランドー漬けにでもしようか」と話し合っています。（広報・徳原尚世）

カレッジだより



大盛況のボランティア活動報告会

第16回ボランティア活動報告会が6月15日、カレッジホールとふれあいホールで開かれました。ボランティアセンター傘下29グループと、グループわの活動ぶりがスクリーンで紹介された後、ステージでは13グループが3時間にわたってパフォーマンスを披露。楽器演奏・合唱・ダンス・朗読・マジック・人形劇などを熱演し、満員の客席から盛んな拍手が



シルバーケーキの会の即売会

贈られていました。

一方、ふれあいホールでは陶芸・絵画・木工・ケーキ・ケナフ製品・花などの展示・即売があり、和室では茶会も開かれて、終日にぎわいました。施設からの招待客も21団体・70人を超え、例年になく活気にあふれた報告会となりました。

新入生歓迎交流会 3学年合同の新入生歓迎交流会が5月23～27日の間、各コース・専攻ごとに開かれました。食文は、日本庭園をめぐりながら自己紹介をするというユニークな趣向でした。東日本大震災を意識して黙祷したり、被災者を励ます合唱をしたりという内容もありました。

地域交流会開かれる

新入生らを対象にした23年度の地域交流会が21～23日の3日間、学習室などで開かれました。現在、地域グループは62。各区別に集まって、グループ代表から地域の特徴や活動内容の説明があり、ボランティア活動への積極的な参加を訴えました。グループわからも担当者が出席。「オールKSCの立場で連携を深め、地域活動や学習支援活動を一緒にやろう」と呼びかけました。地域活動は地区によって濃淡があり、いかに活性化するかはカレッジにとって大事なテーマになっています。

すばらしかったトークコンサート

わの総会後のアトラクションは大変すばらしかった。美しいフルート・オカリナの音色と洗練された軽妙な語り口、さらに黙々として支えるバックのベース演奏に酔いしれた90分でした。



クローン病という難病と闘い、幾度も挫折しそうになりながらも、決して死ぬことはないとの信念でフルートを吹き続けて、見事に乗り越え、待望の演奏活動が出来るまでに漕ぎつけた精神力と忍耐力に敬意を表したい。この経緯の語りは、今、難病と闘っている人達に「諦めてはいけない」との力強いエールを贈るものであり、我々に対しても努力の結果の素晴らしさを教えてくれるものであった。チーム名の「ESPERANZA」とは、ラテン語の「希望、望み」を意味するもので、まさに「愛という名の軌跡」を実践しつつあるお二人に相応しい。

最後に、語り部を妻に委ね、その横で黙々とバック・ミュージックを弾き続けていた男性（夫君）に強い感動と深い同情を感じたのは私だけだったのでしょ。今後も婦唱夫随？で素晴らしい演奏を続けて欲しいものである。池田惇（生15）

秋の学園祭のテーマ決まる

10月8日に開かれる第17回学園祭のテーマが「絆！ ささえ合おう明日へ！！」（青木のり子さん＝国17＝の作品）に決まり、実行委員会から発表されました。

シルバーカレッジ事務局人事（5月1日・敬称略）
【転出】大塚正（カレッジ事務局長）市職信組監査室長へ、霧島道和（総務リーダー）建設局事業用地課へ
【転入】松島秀明（市選管事務局長）福祉振興協会常務理事・カレッジ事務局長へ、志方洋一（灘区役所総務課長）総務リーダーへ

パソコン講座 受講者募集 8月11日～17日の5日間。デジカメコース（9:30～12:30）は受講料7500円。テキスト代含む。パワーポイントコース（13:00～16:00）は受講料7000円。テキスト代は含まず。両コースともカレッジ生を対象に先着20人を募集します。USBは各自持参のこと。受け付けは、7月19日までに、グループわ（743-8101）へ。

WA からのお知らせ



わ の会員は1198人

グループわの会員登録者は、6月30日現在、1198人となりました。1月から新規登録を呼びかけ、約100人の新しい仲間を迎えることができました。コース別では福祉253・国際199・生環343・美工31・音文138・園芸62・食文130・一般42人となっています。年会費1500円の内訳は、ボランティア保険500円、部会助成400円、地区会助成400円、情報誌送料200円です。

電話相談員の登録は79人 グループわが、募集していた電話相談員の登録者は6月30日現在、「子供110番」32人（うち女性9人）、「いじめ110番」35人（うち女性10人）、新規希望者は12人（女性7人）で、計79人となりました。新規希望者は神戸市による講習があり、10月から業務に就きます。

<わ>に4サークルが誕生

今年度からグループわに新しく4サークルが誕生しました。福祉部会には6月から「クレヨン」（代表北川章子・福15、6人）が発足。施設を友愛訪問し、マジック・小話・合唱などで笑いを提供します。「バザー支援グループ」（代表加藤勇次・美10、24人）も、子供たちを支援する各種バザーのお手伝いをします。環境部会ではすでに4月から「神戸ピカピカ隊」（代表大垣廣司・生15、25人）が活躍しており、5月から「野草クラブ」（代表高島忠義・生13、8人）が加わりました。子供たちと野草カルタやスゴロクで遊びながら環境学習をします。<わ>傘下のサークルは63となりました

一ノ谷プラザ登録者 わが、貸室業務を委託されている須磨一ノ谷プラザ（上田市夫責任者）の管理運営にあたる今年度の登録者は21人となりました。休館の月曜日をのぞき、交代で業務にあたります。

ぎやらりー広報委員 （3月現在、敬称略）部会・区会の情報は広報委員までお知らせください。【部会】柳川瀬淳一（国際）茅中英一（環境）寄藤忠彦（文化）岸田富雄（いきがい）【区会】久保正志（中央）大掛敏夫（兵庫）徳原尚世（北）吉岡康（西）細野恵久（須磨）秋山雄一（垂水）【施設など】三輪匡清（未来館）【一般】今田紘（須磨）宮里寿子（北）宮城智子（兵庫）胤艸武宏（北）堺寿代（西）

わのホームページ更新をお手伝いくださる方、ご連絡ください。

わ のメルアド=わ本部 group_wa@wa-net.jp

情報ぎやらりー wa_gallery@wa-net.jp

会員のメリットは？

つばやき

グループ わ の運営委員や非常勤理事を担当したことから、カレッジの在校生、OBに「入会するとどんなメリットがあるのか」と聞かれることがよくある。

わ の会員は現在、約1200人で、年間1500円の会費を払っている。会員にならなくても、在学中の仲間と一緒に、また地域の仲間と一緒にボランティア活動はできるし、趣味を生かした活動も可能である。しかしながら、広範囲の活動をやったり、新しい仲間を作ったりするには限界がある。 わ は各種公共団体からの要請の受け皿としての機能があり、活動に広がりもある。

私は、カレッジ卒業後、ボランティア活動などを幅広くやろうとすれば、 わ の会員になるのがよいと思っている。年会費は、ボランティア保険・情報誌の送料・活動グループへの補助金に使われており、妥当な金額だと思っている。会員のメリットは、一言で言うならば、“再び学んで他のために”を実践できる機会が幅広く得られることだろう。土井昭政（国10）

編集後記



グループ わ の東北支援プランが動き出しました。すでに支援物資を2回にわたって被災地へ送り届け、今月下旬にはOB・現役チームが現地を訪れてボランティア活動をする予定です。個人でも多くの方が現地へ駆けつけ活躍しています。今月号では4組の活動リポートを掲載しました。復旧すらなかなか進まない被災地の惨状に心を痛め、「何かお手伝いできることはないだろうか」と思索している方々の参考になれば、との思いからです。物資も続々と寄せられています。ぜひ、あなたも支援の輪に加わってください。（2～5面に記事）

「花実の森（はなみのもり）」。カレッジ北側の里山にかわいい名前がつけました。2期目を迎えた西田執行部が事業の柱として取り組む里山再生プラン。木々に名札をつけ、ベンチを置き、散策コースを設けて、子供たちの自然学習の場として蘇えらせます。5年がかりの整備作業には多くの労力が必要です。こちらも、ご支援をよろしく。（広報担当・南形徹）



楽しかったフューフィールド



- ④ カバを作ったよ
- ⑤ 風車きれいでしょ
- ⑥ いくぞ、シュート!



- ⑦ 回った 回った私のコマ
- ⑧ 竹馬上でしょ
- ⑨ 動物風船いっぱいもらった



写真：芦田義和・南形徹（5月3日撮影）

グループわ 7～9月イベントガイド

開催日時	場所	テーマ と 内容	アクセス・問い合わせ
7月9日(土) 10:00～15:00	こうべ環境未来館	エコスクール 昆虫調査大作戦	神鉄木津駅徒歩 995-3196
7月30日(土) 15:30～18:30	しあわせの村	しあわせの村まつり 昔遊び、皿まわし、ペタンク、スピードガン	グループわ 743-8101
7月30日(土) 10:00～15:00	こうべ環境未来館	エコスクール 夏休み宿題お助け隊(エネルギー編)	神鉄木津駅徒歩 995-3196
8月2日(火) 10:00～15:30	森永乳業神戸工場	エコスクール 牛乳・チーズによるエコクッキング	阪神西灘駅徒歩 995-3196
8月7日(日) 13:00～16:00	シルバーカレッジ	かえっこバザール 不要のおもちゃを交換する	グループわ 743-8101
8月9日(火) 10:00～13:00	魚崎児童館	エコクッキング(出前講座) 豆腐づくり	グループわ 743-8101
8月21日(日) 10:00～15:00	しあわせの村	夏休み工作塾 工作、折り染め、ケナフ、名札づくり	グループわ 743-8101
8月28日(日) 10:00～15:00	こうべ環境未来館	エコスクール 夏休み宿題お助け隊(3R編)	神鉄木津駅徒歩 995-3196
9月18日(日) 10:00～16:00	しあわせの村	第2回チャレンジボウル ローンボールを楽しむ	グループわ 743-8101
9月23日(金) 10:00～15:00	こうべ環境未来館	エコスクール ワケトンといっしょに大研究	神鉄木津駅徒歩 995-3196

* 内容は変更の場合があります。

野草を食べよう

野草を探して食べてみよう、という催しが4月23日、環境未来館(西区)で開かれました。あいにくの大雨でキャンセルが続出、参加者は3家族の11人。10時からビデオを見ながら「食べてはいけない野草」などの話を聞き、環境カルタを楽しみました。お昼には、スタッフが用意したノビルなど8種類の野草を天ぷらに揚げて試食会。「初めて食べたけどおいしかった」と子供たちもにこにこ顔でした。

この催しは、毎年度、未来館が主催するエコスクールの第1回目。毎月、未来館などを舞台に、子供たちに環境の大切さを理解してもらうプログ

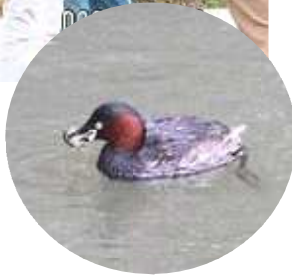
ラムを実施しています。問い合わせは同館(078-995-3196)へ。=写真はてんぷらの試食会





野鳥を求めて100人

あつ、ヒバリが飛んでる！ アオサギがいた！ 花曇りの4月24日、しあわせの村でバードウォッチング大会が開かれ、初めて来たという小学生や常連の夫婦ら約100人が参加。双眼鏡やカメラを手に、朝10時から2時間かけて堂坊池をめぐるコースを散策しました。「ほら、カワセミが池の上に...」。野鳥の会スタッフの説明を聞きながら、「いた、いた。わあ、きれい」などと、歓声をあげていました。正午前には芝生広場に戻って、報告会。なんと32種類もの野鳥が確認されたそうです。(円内、カイツブリの写真は堀池邦康さん提供)



森林浴を楽しむ

わ 主催の森林浴ウォーキングが6月15日、新神戸駅一布引貯水池一市が原一諏訪山公園のコースで行われ18人が参加。六甲の初夏を満喫しました。小鳥のさえずり、カジカの鳴き声、あざやかな新緑、咲き乱れる卯の花を楽しみながら、修法が原で昼食、大龍寺ではポケ防止の願をかけて下山。したたる汗をぬぐいながら、参加者は満足そうでした。(取材・納村裕子)



神戸祭りをピカピカに

グループわの傘下で、結成されたばかりの「神戸ぴかぴか隊」が、神戸まつり(5月15日)に初出勤。在校生も交えた64人が、会場の清掃や案内役、花舞台に出演した銭太鼓の応援に活躍しました。好天に恵まれ、パレードが行われるフラワーロード帯は多くの人出で大混雑。ゴミもあふれるほどでしたが、「楽しく仲良く」清掃ボランティアに汗を流し、さわやかな1日を過ごしてきました。(取材・大垣幸次)

トピックス



大忙し有馬ガイド

観光シーズンで大忙しの「有馬観光ガイドボランティア」を5月21日に訪ねてみました。姫路工大生が来るよ」との情報で駆けつけたのですが、ヤングは見当たらず、0Bの殿方ばかりでちょっと残念。でも、有馬の泉質やメンテナンスの大切さを解説する横山忠明さんの名ガイドぶりには感心しました。垂水からやって来た車椅子のグループ約20人を案内していたのは岩槻正義さん。金の湯から極楽寺をぬけるコースは高低差60mもあり車椅子での走行は大変ですが、ベッド暮らしの人や、付き添いの家族にはどんなにか楽しい一日だったことでしょうね。(広報・宮里寿子)